歩み来し道の物語

江戸時代中期、蝦夷地の交易場所となり、松前藩の商人村山伝衛兵が増毛場所を請け負い、鮭、鰊などの海産物の交易が盛んになっていきました。

江戸時代後期、ロシアの南下政策の脅威から蝦夷地を守るため、国内の諸藩に警護の命令が下り、津軽藩、秋田藩が増毛の地に越年陣屋、元陣屋を設け、増毛の地を治めました。明治維新後、北海道開拓が始まり、先人たちの切り開いた漁業と農業が増毛の地に定着し、地域経済の発展と人々の生活基盤を支えていきました。

鰊の千石場所として栄えた明治時代の増毛市街は、北海道１３市街の一つに数えられました。増毛には郡役所、官立病院、支庁、裁判所などの官庁や銀行の支店が置かれ、鰊の豊漁による繁栄もあり、道北の政治、経済、文化の中心地となりました。

明治３３年（１９００年）、道内の１５ヵ町村に１級町村制が施行され、従来の増毛郡内の各町村を増毛町管下に治め、増毛町が誕生しました。

CONTENS

1 歩み来し道の物語 **(過去～現在～未来)**
2 確かな未来に継承 **(過去～現在～未来)**
3 安定した漁業経営へつながる浜づくり **(増毛町の漁業)**
5 安心安全な増毛ブランドづくり **(増毛町の農林業)**
7 根ざした産業が活力を支える **(増毛町の商工業)**
9 四季彩・祭　躍動と情熱 **(増毛町の観光・イベント)**
11 誰もが安心して暮らせるまちに **(医療・福祉・保健)**
13 活き活きと学び心豊かな人を育む **(学校教育)**
14 生涯学習の推進 **(社会教育)**
15 健康で明るく生涯スポーツ **(スポーツ)**
16 豊かな自然を活かした快適な暮らし **(生活環境)**
17 歴史・文化の伝承と創造 **(文化)**
18 町民とともに明るく豊かなまちづくりを **(行政・議会)**

総合交流促進施設 元陣屋

自然と暮らしが豊であるために

北限の果樹産地として、りんご、梨、さくらんぼ、ぶどう、プルーンなど多くの品種に恵まれ、クリーン農業の推進により「フルーツの里ましけ」を支えています。近年の稲作の減反が進む中で、良質な米の栽培を推進し、食味に優れた増毛産米を生産しています。

鰊漁の衰退を契機に、新たな漁業を展開し、すけとうたら、えび漁などの沖合い漁業やタコ漁、かれい漁などの沿岸漁業、そして育てる漁業として、ホタテ養殖、ウニ・アワビ・サケの資源増殖などの取り組みを展開し、活気ある漁業のまち増毛を支えています。数の子、たらこ、身欠鰊、いくら、たこ柔らか煮などを製造する水産加工業は、重要な基幹産業と雇用の場となっています。

ノールマリーナ

暑寒別天売焼尻国定公園の中にあり、自然景観に恵まれた郷土増毛は、町民の誇りでもある。様々な高山植物が咲き誇る秀峰暑寒別岳や暑寒別の山塊がそのまま日本海に落ち込んで高さ100mの断崖絶壁が続く雄冬海岸は手つかずの自然が残っています。温泉、キャンプ場、スキー場、歴史的建造物など各種観光資源と四季折々の増毛の食材を活かした歴史と食を体験できる観光を推進しています。少子高齢化と過疎化が進む中、まちづくりプランを基本に町民が生き生きと暮らせる生活環境、住民福祉、教育環境の充実を図っています。北海道有数の歴史の足跡が今も残る歴史の香る増毛町は、国指定の重要文化財「旧商家丸一本間家」をはじめに、北海道遺産の指定を受ける歴史的建物群が散在し、近年は多くの観光客が訪れています。

増毛港

雄冬展望台

確かな未来に継承

2019年までを計画期間とする総合計画（まちづくりプラン）にある「地域力を活かし確かな未来へ～住んで誇りに思える故郷をめざして」を基本テーマに、町民が元気で生き生きと生活できる、ふるさと増毛町をめざしています。地域力（地域資源）を活かし、町民と行政が一体となり先人たちが築いた歴史と文化・伝統を後世に伝え、町民が住んで誇りに思えるまちづくりと漁業、農業、水産加工業の振興と増毛の特色を活かした観光振興を図るとともに、新たなビジネスモデルを創造していきます。